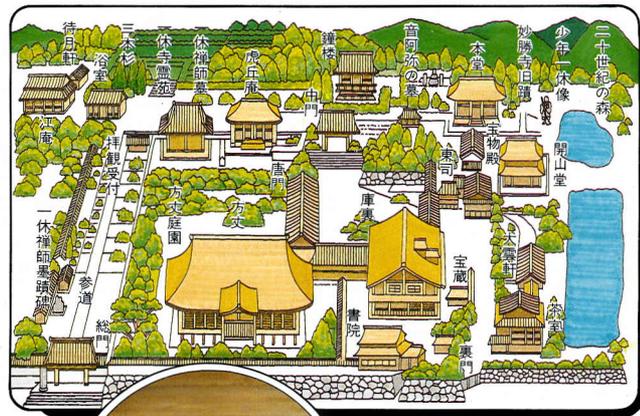




蓮文本堂



当寺には一休禅師遺法といわれる有名な一休寺納豆があり、雅趣のある風味は万人に喜ばれている。

### 交通案内

- 近鉄 ● 上六～西大寺(京都線)～「新田辺」下車、約1.5K
- 京都～丹波橋～「新田辺」下車
  - 奈良～西大寺～「新田辺」下車
- JR ● 京橋(学研都市線)～長尾～「京田辺」下車、約1K  
(下車後、バス有「一休寺道」下車、西約0.5K)

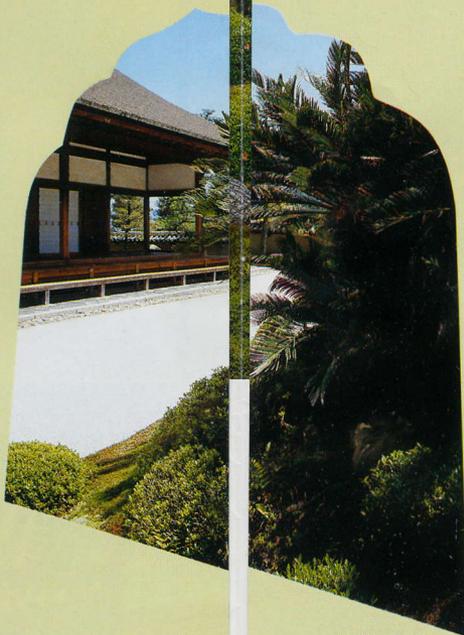
叡恩圃  
一休寺

叡 恩 圃  
一 休 寺

〒610-0341  
京都府京田辺市新里ノ内102  
TEL (0774) 62-0193  
イキョクサン  
<http://www.ikkyuji.org/>



重文 一休禪師頂相



唐門窓より  
南庭を望む



重文 一休禪師木像



自戒集

狂雲集

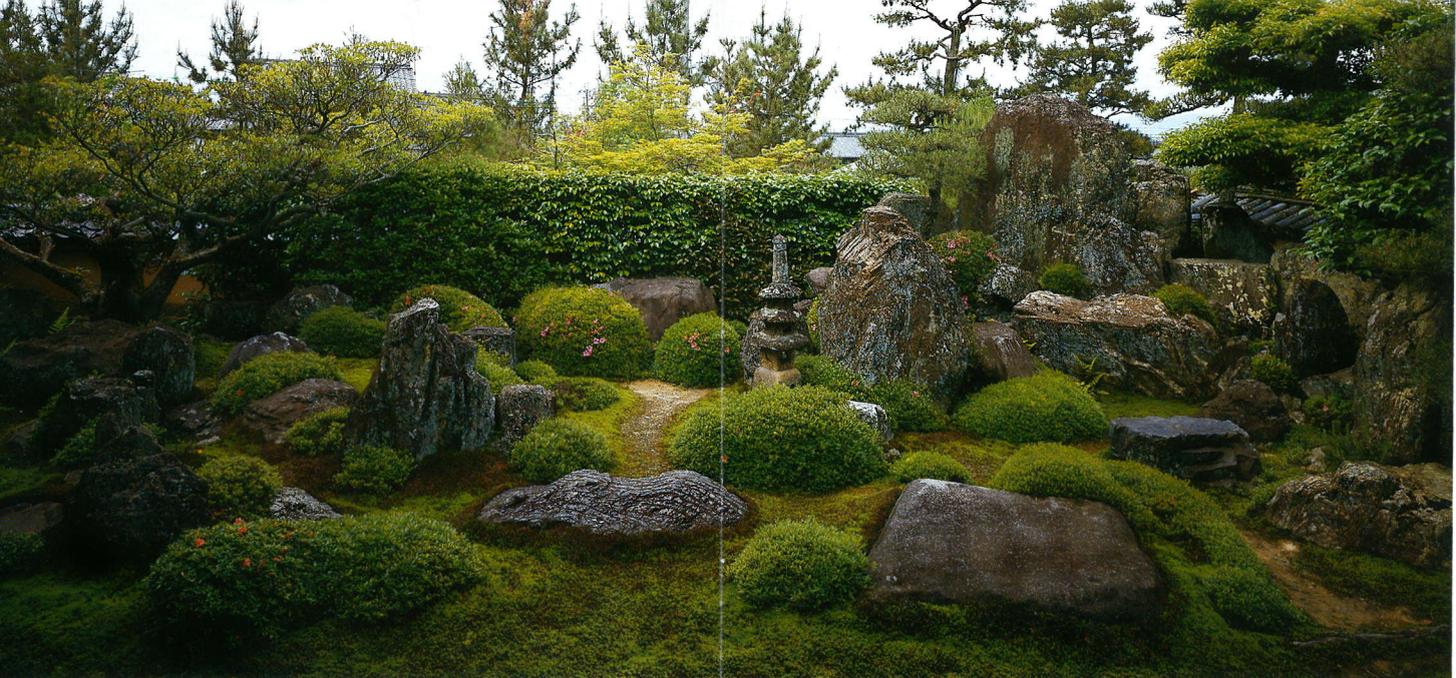


遺偈

## 酬恩庵一休寺の沿革

当寺の元の名は妙勝寺であつて、鎌倉時代、臨済宗の高僧大應国師(なんぼじょうみょう)(南浦紹明)が中国の虚き堂和尚どうに禅を学び、帰朝後禅の道場をここに建てたのが始めである。然るにその後、元弘の戦火にかかり復興もならずにいたるものを、六代の法孫に当る一休禅師が康正年中(一四五五―六年)、宗祖の遺風を慕つて堂宇を再興し、師恩にむくいる意味で、「酬恩庵」と命名した。禅師はここで後半の生涯を送り八十一才で大徳寺住職となつた時もこの寺から通われたのであり、文明十三(一四八一)年十一月二十一日八十八才の高齡を以て当寺において示寂され遺骨は当所に葬られたのである。このように禅師が晩年を過ごされたことにより、「一休寺」の通称で知られるに至つたのである。





名勝 方丈庭園(北庭)

### 本堂(重要文化財)

永享年間(一四二二―一四三〇年)足利六代將軍義教の帰依により建立せられたもので、入母屋造り檜皮葺で、内部には釈迦如来・文殊菩薩・普賢菩薩を祀り、山城・大和の唐様仏殿としては一番古い遺構の建造物である。

### 方丈(重要文化財)

加賀城主前田利常公が大坂の陣の時、木津川に陣をしき当寺に参詣したおり、寺の荒廃を歎き、慶安三(一六五〇)年に再建されたものである。内部襖絵は江戸初期の画家狩野探幽斎守信の筆になったものである。

### 一休禪師木像(重要文化財)

方丈中央に安置してある木像は、一休禪師御逝去の年(八十八才)、高弟墨濟禪師に命じて等身の像を作らしめ、頭髮と鬚とは自らのものを植付けられたものである。

### 頂相(重要文化財)

一休禪師の肖像画で絵は伝曾我蛇足、賛は一休の自筆である。賛の内容は、臨濟から伝わった禪を一休一人で引き継いでいるのだというものであり、頂相中、代表的な作品である。

### 虎丘庭園(名勝指定)

虎丘庵は、一休禪師が京都東山より移して居住した所であり、周囲の庭園は室町時代の禪院枯山水の地割庭園で、作者は茶祖村田珠光と伝えられている。

### 方丈庭園(名勝指定)

方丈周囲の庭園で作者は松花堂昭乗、佐川田喜六、石川丈山三氏合作といわれ、北庭は枯滝落水の様子を表現した蓬萊庭園、東庭は十六羅漢の遊戯を擬えたもの、南庭はサツキの刈込みと白砂の庭とした北、東、南、三面の庭よりなる江戸時代初期の禪院枯山水庭園である。

庫裏・唐門・東司(重要文化財)

慶安三年、前田家が当寺再建時に新築せられたものである。

鐘楼・浴室(重要文化財)

慶安三年、方丈等再建時に修復せられたものである。

御廟所(墓所)

文明七(一四七五)年、一休禪師八十二才の時自ら建立せられたもので、廟前庭は虎丘庭園と同じく村田珠光作の室町時代の枯山水庭園である。禪師は人皇百代後小松天皇の皇子であるので御廟所は宮内庁の管轄である。

墓地

能楽観世流三代音阿弥元重、十五代元章、十九代清興、江州観音寺城主佐々木承禎、弓木多攝津守、茶人寸松庵等、禪師の遺徳を慕ってこられた名士の墳墓がある。

宝物殿

一休禪師の墨跡や御使用の御物等の寺宝を展示及び火災等の災害から守る為に建立した、本格的な土蔵建築である。

